

March 15, 2026

## 神の独り子

ヨハネ 3:16

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネ 3 の 16 には、福音のエッセンスが凝縮されています。3月16日には、ヨハネ 3 の 16 を暗唱し、身近な人にそれを伝えたいと思います。きょう、もういちど、ヨハネ 3 の 16 を学び、神の愛がどんなものかを知って、その愛を受け、また、それに応える礼拝としましょう。

### 一、神の愛とイエス・キリスト

「父の愛は山よりも高く、母の愛は海よりも深い」という言葉があります。聖書でも、神の愛が天よりも高いものとして、自然界のものでたとえられています。たとえば、詩篇 103:11-13 にこうあります。「天が地上はるかに高いように／御恵みは主を恐れる者の上に大きい。東が西から遠く離れているように／主は 私たちの背きの罪を私たちから遠く離される。父がその子をあわれむように／主は ご自分を恐れる者をあわれまれる。」けれども、神の愛をどんなものにとたとえたとしても、それは神の愛を完全には言い表わせません。神の愛は地上のどんなものをも超えたもので、どんなに言葉を尽くしても伝えきれないものだからです。

それで神は、私たちに神の愛を伝えるために、「たとえ」ではなく、愛そのものを形あるものとして、私たちに送り届けて

くださいました。それが、イエス・キリストです。ヨハネ3の16が「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」というように、神の愛は、そのひとり子、イエス・キリストとなって私たちのところにおいでになったのです。クリスマスは、神の愛である御子が人となって世に来られたときだったのです。

ヨハネ3:16で、イエスが神の「ひとり子」と呼ばれているのは、イエスが特別な存在であることを示しています。「ひとり子」という言葉は、「一人息子」や「一人娘」を表すときにも使われますが、ここでは、「一人」(“one”)という意味ではなく、「独り」(“only”)という意味で使われています。数のことではなく、本質のことを言っています。特別な、他にはない独自のものという意味です。

聖書では天使や人間、また、「神の民」が「神の子」と呼ばれることがあります。天使には、神からの特別な権威や能力が与えられているからでしょう。また、人は「神のかたち」に造られたので、そう呼ばれ、「神の民」とされた人も、その選びのゆえに「神の子ども」と呼ばれたのです。しかし、イエスは、そのような意味での「神の子ども」の一人、また、造られたものの一つではありません。むしろ、すべてのものを造られたお方であり、永遠の先から神とともにおられたお方、神より生まれた神の御子、御子なる神です。それは、ヨハネ1:1-3で言われているとおりです。「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。」「ニカイア信条」ではこう言われています。「わた

私たちは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信じます。主はすべての時に先立って、父より生まれ、光よりの光、まことの神よりのまことの神、造られずに生まれ、父と同質であり、すべてのものはこの方によって造られました。」

イエスは、つねに神を「父」と呼び、父なる神も、イエスについて「これはわたしの愛する子」（マタイ 3:17）と言われました。父なる神と御子イエスは愛によって結ばれていました。ヨハネ 1:18 は、父と御子の愛の結びつきを描いています。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」「ふところ」という言葉が使われています。母と子なら、「母の胸に抱かれて」となるのですが、父と子ですので、「父のふところにおられる」となったのです。寛容で相手の欠点も包み込む包容力のある人を「ふところが深い」というように、「ふところ」という言葉は、神の大きな愛を表しています。父なる神と、ひとり子の神が完全な愛で一つに結ばれていたのです。父の愛のふところから世に来られた「ひとり子の神」、イエス・キリストは「神の愛」そのものなのです。ですから、聖書は「父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされた」と言うのです。私たちは、神の愛を、理論や説明やたとえではなく、人となられた神の御子イエス・キリストによって知るのです。

## 二、神の愛とイエスの生涯

ところで、賛美歌の多くは、ヨーロッパやアメリカで作られたものですが、日本人が作詞作曲したものもあります。「馬槽の中に」（新聖歌 99）はその代表的なもので、イエスの生涯を歌ったものです。「馬槽の中に産声上げ、木工の家になり

て、貧しき憂い生きる悩み、つぶさになめしこの人を見よ。食する暇もうち忘れて、虐げられし人を訪ね、友なき者の友となりて、心砕きしこの人を見よ。」愛で満ちているイエスのご生涯が見事に歌われています。イエスは愛を説かれましたが、それは言葉だけのものではありませんでした。イエスはご自分のすべてでそれを実践し、お示しになったのです。

イエスは当時、触れてはいけないと教えられていたツアラアトの人にも手を触れ、全身できもので覆われた人を抱きかかえて彼らを癒やされました。エリコの町一番の嫌われ者、取税人ザアカイの家に客となって食事をともにしました。まさに、「友なき者の友」となられたのです。人々が、姦淫の現場で捕まえたという女性をイエスのところに連れてきたときも、イエスは地面に放り出されたその女性のそばで、彼女をかばうようにしてかがみ込み、「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい」と言って人々を退散させ、そして身を起こして彼女に言われました。「わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。」イエスの正しさ、聖さと愛とが示されている出来事です（ヨハネ 8:3-11）。

イエスの愛は「神の民」と呼ばれた人々だけにとどまってはいませんでした。イエスは、当時ユダヤ人とは犬猿の仲だったサマリアの女性にご自分がメシアであることを明かしておられます。また、ユダヤの人々には忌み嫌われていた豚を飼っているゲラサ人の地でも、悪霊に憑かれた人を救っておられます。ツロとシドンの地方にいたカナン人の母親の願いを聞いて、その娘を癒やされました（マタイ 15:22-28）。

エペソ 3:18 に神の愛、キリストの愛の「広さ、長さ、高さ、

深さ」という言葉があります。キリストの愛は、世界のすべての人に届くほど「広く」、時が経っても決して変わらない「長い」愛です。それは純粹で「気高い」愛であり、私たちを神に近づけるものです。そして、それは、「深く」、罪の深みに溺れている人にも届きます。神の愛から漏れている人は世界に誰一人いないのです。

### 三、神の愛とイエスの十字架

このように、イエスのご生涯の全体は、神の愛を表すものですが、中でも、十字架以上に神の愛を表わしているものはありません。「愛」は「ハート」の形で表されますが、神の愛は「十字架」の形で表されるのです。

ヨハネ 3:16 は「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」と言っていますが、この「与える」(give) という言葉は、父なる神が御子イエスを、世に送られただけでなく、私たちの罪の赦しのための犠牲としてお渡しになったことを言っています。親であれば、誰も、何を捨てても、子どもだけは捨てられないものです。他のどんなものを犠牲にしても、子どもだけは守ろうとします。子どもを抱きしめ奪われないようにし、身をもって子どもをかばい抵抗します。父なる神も「ひとり子なる神」、御子をふところの中に入れて守っておられました。それなのに、父なる神は、御子を、私たち、罪ある者を救うために、私たちの罪の身代わりとして差し出されたのです。そして、イエスも父なる神と同じく、罪ある私たちを愛して、ご自分の命を進んで差し出されました。

イエスは、十字架を前に弟子たちと「最後の晩餐」をなさいました。そのときパンを裂いて弟子たちに与えました。それは

イエスがやがて十字架でそのからだを裂かれ、死んでゆかれること、また、そのイエスの死が私たちを生かすものであることを教えるものでした。そのときイエスは言われました。「これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。」

(ルカ 22:19)。ある英語の訳では「与えられる」というところを、“given up”と訳していました。イエスのご自分を救おうとはなさらず、ご自分のいのちを“give up”されたのです。ですから、ヨハネ 3:16の「ひとり子をお与えになった」という言葉にも、父なる神が最愛の御子を“give up”されたという意味が含まれています。それは、神が私たち罪ある者を愛し、あわれんで、その救いのために救いの道を開こうとされ、イエスが、父のみこころのとおりにご自分を私たちの罪の赦しのための犠牲として献げてくださったことを語っています。

愛は簡単には量ることができないものですが、愛の大きさは払った犠牲の大きさによって量れるかもしれません。神が私たちの救いのために払ってくださった犠牲は、かけがえのないご自分の御子であり、御子イエスが払われた犠牲は、その命でした。その犠牲を思うとき、神の愛が、どんなに大きなものか、この世のどんなものにも比べられないほどのものであるかが分かるはずです。ですから、聖書はこう言います。「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(ヨハネ第一 4:9-10) この言葉は、ヨハネの福音書を書いた使徒ヨハネによって書かれました。ヨハネはここで、ヨハネ 3:16を言い替えています。ヨハネ

は十字架を指して、「ここに愛がある」と叫んでいます。もしヨハネ 3:16 や、ヨハネ第一 4:9-10 がなければ、十字架の出来事は私たちにとって残酷で、恐ろしく、悲しみ満ちた物語でしかありません。それは、正しい人が苦しめられるというこの世の不条理の象徴でしかありません。しかし、神がこの私を愛して、御子をさえ犠牲として私を救ってくださったので、それは神の愛のしるし、私たちの救いのしるしとなったのです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」ここに言い表されている神の愛、イエス・キリストの愛に答える第一歩は何でしょうか。それは、「御子を信じる」ことです。イエスは神の御子、キリスト、私の罪の身代わりに十字架で死なれ、復活され、私を「永遠のいのち」で生かしてくださると信じ、受け入れることです。人は、愛されることなしに、他を愛することはできません。イエス・キリストを信じる信仰によって神の愛を知り、神の愛に生かされることによって、他を愛する生活を始めたいと心から願います。

### (祈り)

父なる神さま、あなたが、最愛の御子、かけがえない「ひとり子」さえ私たちにくださった、大きく、長く、高く、深い愛を心から感謝します。私たちは皆、その愛を知らされ、それによって救われ、生かされてきました。まだ、この最高、最大の愛を知らない方々に、ヨハネ 3:16 を分かちあい、あなたの愛を証しできますよう、私たちをお使ってください。御子イエス・キリストのお名前です。